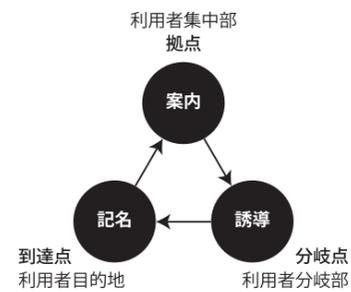


利用者が敷地外から、施設への導入、そして施設内において円滑に行動ができるように、案内・誘導するサインを体系化して配置することで、連続性のある一貫したシステムを構築することが大切である。

案内→誘導→記名

サインシステムの原則は、案内→誘導→記名である。利用者の行動の起点となる場所で、現在位置と目的地の位置関係が分かる案内図で全体の把握ができるようにし、主要な分岐点で施設の方向を示し、目的地についたことを知らせる。

例えば、駅の周辺案内サインで目的地を確認する。目的地に行くまでの交差点にある誘導サインで方向を確認し、目的地についたことを記名サインで確認する。屋外から屋内へと続くサインも同じで、入口付近で建物の中の内容を確認し、目的地の階数や位置関係を把握、その後主要な分岐点で誘導され、目的地に到達する。



サインシステムの留意事項

- ①表示情報の整理
- ②利用者の把握 自動車か歩行者か
- ③利用者動線の把握 利用者がどこから来るか、どのように導くか
- ④サインの視認距離の把握 利用者がどこで確認できるか

敷地外／誘導サイン

主要道路からの分岐点や最終分岐点などに設置する。

利用者は事前に大まかな場所を把握しており、また、カーナビの普及など、遠方からの誘導は必ずしも必要ではない。情報は、施設名称と方向や距離が瞬時に視認できることを考慮する。

屋上・高層壁面／施設名称サイン

遠距離から施設の位置を確認する。利用者の視野角に合った位置に設置し、文字の大きさや色彩を考慮する。

導入部・入口付近／施設名称サイン・駐車場・駐輪場誘導サイン・施設案内サイン入口誘導サイン

中・近距離からの施設の名称や駐車場の入口を確認する。案内サインは、歩行者を対象とし、施設の内容やサービス、配置図などを表示する。

A-2

A-4

A-1

A-7

A-2

F-1